

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

SOS vol. 200通信
H29年4月7日発行
発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

＜利用状況 案内板（☆募集中★満員）＞
☆ナイス・ケア ☆＝利用者さん大募集中
☆ナイス・デイ（定員 10名）
日 月 火 水 木 金 土
5 9 7 8 6 7 6
☆ナイス・ホーム（定員 21名、現在登録者 16名）
☆愛宕の家（定員 17名中入居者 14名）
☆つしま紹介所
☆ナイス・キッズ
（平日、下校後の利用のみ募集中）
～参考にご利用下さい～

＜4月行事予定＞
3～7日 桜花見
10日 外食DAY
20日 避難訓練
29日 誕生日会
＜不定期行事＞
天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

＜教室案内＞
・和太鼓 月曜日(年間 35回)
場所：愛西市川淵コミュニティ
・コーラス 水曜日(月 2回)
場所：喫茶てのひら
※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。
各教室月謝制で、定員あり。
詳細はお問い合わせ下さい。

Hさんを偲んで／S・O・S
愛宕の家に入居されて約4年半。棟梁だったHさんが94歳の天寿を全うし、他界されました。
早起きで働き者。多くの大工さん達に指揮をとってこられていたからいつも「早よ起きなあかん！！」「早よ〇〇せな！！」そして「ありがとう、ありがとう」と手を揚げる。愛宕の家でも親方の存在そのものでした。
3月12日食べる事が大の楽しみだったHさんが、しっかりと自分で食べていた朝食の途中に様子が急変。もともと多発性脳梗塞を患っていたこともあり、救急対応で市民病院に運ばれ入院。一時は快方に向かったものの、意識が戻ることなく3日後に他界された。
多くの弔問客と供花に生前のHさんの活躍ぶりを感じる事ができました。Hさん、長い間お疲れ様でした。天国でゆっくり休んで下さい。
合掌(Y・I)



正月の餅をほおぼる

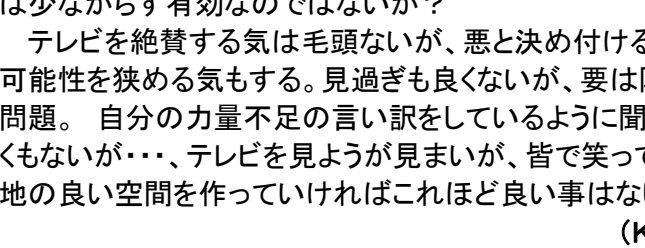
高齢者権利擁護推進委員会発足します／S・O・S

第1回3月11日『身体拘束ゼロへの手引き』のテキストを基に日常業務の具体的な行為と介護をする者の態度を振り返り、相互に気付いた事や困っていることを文字にして問題提起。各部署でのカンファレンスにて対応するかを検討していくとした内容。事務所にも『パーソンセンタードケア』掲示板を設け、介護現場の問題を表面化させて、職員の意識化を促すようにしていきます。(Y・I)



高齢者とテレビ／愛宕の家

とかくテレビは悪者になりやすい。子どもにはもちろん高齢者にも良くないと言われるが、問題は見せ方ではないのだろうか？見せっぱなしにすることが良くない事は確かな事実。脳が受身になるらしい。
最近、以前に比べめっきり表情が乏しくなったと感じるOさんが、テレビを見ていて声を出して笑った。『あ、めずらしいな』と思いテレビを見てみると、女性タレントが世界各地に行き、いろんなことにチャレンジするという内容のもの。Oさんの何かにはまったのだろう。ニュースで事件があったりすると「怖いねえ」「こんな事があったのか」と興味を持ったり、時代劇を見て「こんな事あるかあ？」とテレビに突っ込んだり。大相撲を見て「わー！すごいな！」と感動したり。歌番組を見て口ずさんで「この歌知ってる」と懐かしんだり。それらの事から話題が無限に広がる。皆さんとのコミュニケーションツールとして活用するのは少なからず有効なのではないか？
テレビを絶賛する気は毛頭ないが、悪と決め付けるのも可能性を狭める気もする。見過ぎも良くないが、要は限度の問題。自分の力量不足の言い訳をしているように聞こえなくもないが・・・、テレビを見ようが見まいが、皆で笑って居心地の良い空間を作っていければこれほど良い事はない。
(K・T)



4月より車にマークが付きまして／S・O・S

S・O・Sの意味
S(サポート)：支える・手助けする 元気づける
O(ワン)：一人ひとりに対して たとえ一つのことでも
S(サービス)：力をつくす 奉仕する
社員一同、名前に恥じないよう、運転にも十分気をつけていきます。(Y・I)



チームケアの一員／ナイス・ケア

Mさん夫婦はそろって91歳。ご主人は数ヶ月前に転倒され、起き上がりや歩く事が大変な状態。奥様は軽度の認知症。通院や買い物、薬の管理など、定期的に息子さんの援助を受けられているものの、普段は夫婦2人の生活。通所介護(デイサービス)、訪問介護、配食サービス等の介護サービスを利用されながら、自宅での生活を送って見えます。
91歳と言えば、自分の事をするだけでも大変。奥様は介助が必要なご主人の介護に献身的。訪問時、「奥様が倒れてしまうのではないかと・・・」と心配になるほどの面持ちの日もあります。しかし、もっと大変だった時は、ご主人が入院中、一人で過ごす事になった時の奥様。このままでは自分の事も分からなくなってしまうのではないかとこのほど、認知機能が低下してしまいました。そして、ご主人が帰宅されると、『世話をしなくては』という気持ちでシャキッとされたのです。今では訪問時間内にロゲンカをするご夫婦を何度眺める事か・・・でもこれが元気の秘訣だったんだと実感しているのはヘルパーだけでなく、関わっている方々も同じだと思います。
ケアマネさんをはじめ、他職種の関わり、変化の気付き、情報共有、連携、Mさん夫婦がいつまでも元気にケンカしながら自宅での生活が続けられるよう、支えるチームの一員として関わり続けていきたいと思ひます。
(A・H)

袖すり合うも多生の縁／S・O・S

昨年、叔母が95歳の往生で天寿を全うした。その通夜式で心に残った住職の話があるので紹介します。
『袖すり合うも多生の縁』
“多生”とは六道を輪廻して生まれ変わる
“縁”とは前世で結ばれた因縁のこと。
『これだけ多くの人々の中で、すれちがう程度での出会いであっても何度も生まれ変わった上での出会い。人の縁は全て単なる偶然ではなく深い因縁によって起こるものなので、どんな出会いも大切にしなければいけない』
という仏教の教え。介護の世界も出会いと別れの連続。利用者さん、ご家族、各事業所、一つ一つの出会いを大切に、真剣に向き合うべきだと考えさせられた。(M・O)



第三者評価／ナイス・ホーム

小規模多機能型居宅介護(ナイス・ホーム)は地域密着型サービスのため第三者評価が義務付けられています。目的は『サービスの質の向上』『利用者による事業所の適切な選択』とされています。
H27年度より専門の評価機関による評価ではなく、運営推進会議の参加者による評価へと切り替わってきました。
内容も大きく変更があり、スタッフの“個人自己評価”を元に、“事業所自己評価”を作成。“事業所自己評価”を運営推進会議の参加者や利用者、家族へ配布し、“地域関わりシート”というものを作成してもらい、それを元に運営推進会議で意見をもらう。またその意見を元に“サービス評価表”というものを作成し、会議にて承認をもらい評価終了。何ともややこしい手順となりましたが、今年度で2回目が無事終了しました。その結果は後日、会社のホームページに掲載しますので是非見てください。
さて、一連の第三者評価が終わり、振り返ると、スタッフ個々がまだまだ小規模多機能の意義を心理解できていないのかもしれないと感じました。私も含めて・・・
普段の何気ない関わりや対応が、実は小規模ならではだったという自覚があまりにも薄い・・・。第三者評価では事業所全体の目標が上げられました。しかし、自己評価の過程で個々の課題も何個か見えてきました。一つ一つクリアにしていきながら、日々の関わりに繋げていきたいと思ひます。(Y・O)

介護プロフェッショナルキャリア段位制度④

＜段位取得者＞ 1期生&2期生&3期生(計7名)
＜認定中＞ 3期生&4期生(4名)
＜現在、技術評価中＞ (0名)

＜編集後記＞

「介護は知恵比べ」どんなに気をつけていても、一瞬の間に一人で外出してしまう認知症の方。怒ってしまう方。お風呂を嫌がる方・・・。「大変大変」と思う前に、不安にならないように対応できる術を考える。介護者と要介護者、知恵比べの毎日♪(Y・O)

あれから一年・・・／ナイス・キッズ

数年前までは、スタッフの子どもたちの利用のみだったナイス・キッズ。「あんた達何人兄弟？」と思うほど、結束固く悪さもしながらルールを守って過ごす場であった。
去年の4月、一気に上の子ども達が進級しナイス・キッズから離れてしまい、下の2人だけになってしまった。と同時に外部の子ども達が何人か仲間入り♪ 始めは自分達が兄ちゃん達に教えられた(仕込まれた?)様に、何の悪気もなく下の子達に関わり始める。でもそれが、『いじめられた』『怒られた』とご指摘を頂くことも多々。その都度、お互いに歩み寄れる姿が見られた。
1年経った今、とにかく楽しそうな声が響き渡っている。兄ちゃん姉ちゃんもホントに下の子達を積極的に遊びに誘い、お互いに思いっきり遊んでいる。
たまにはきつい口調で話してしまうこともあるけれども、下の子達が、兄ちゃん達の遊びに目をキラキラとさせながらついていっている姿を見ると、ナイス・キッズでいい経験が出来ているのかなと微笑ましくなります。ナイス・キッズは長期休みになるととにかく賑わう。学校や兄弟とは違う、何かを学んでいってくれるよう、会社全体で見守っていきたいと思ひます。(R・W)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。
4月の発送部数 91部

